

ともに、未来を創ろう

山添藤真

ご挨拶

入道雲が空に映え、まぶしい夏の到来を告げています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。さて、平成24年6月議会定例会が開催されました。本報告では、一般質問と一般会計補正第1号の質疑内容の紹介と活動内容の一部を紹介させて頂きます。猛暑の折り、どうかご自愛下さいますようお願い申し上げます。

『空き家活用推進政策を提案する』

山添 全国で空き家増加が目立つようになり、老朽化した空き家倒壊の危険を防ぐため、各地で空き家管理条例などを制定する動きが活発化している。また、人口減少に悩む地域では、人口を少しでも呼び込むため、「空き家バンク」などを創設するなどの対策が講じられている。当町においても、同じような状況だと推測されることから、このような対策に加えて、中古住宅の利活用あるいは持ち家を賃貸化した物件への居住が進むような政策体系を町独自で作る必要があると考えている。見解を問う。

町長 まずどのような規模で空き家や廃屋があるのか、実態調査を行い、どのような課題があるのかを浮き彫りにし、それらを整理しながら対応していきたい。

『地域おこし協力隊の募集について』

山添 3年前、意欲ある都市住民を地方の新たな担い手にすることを目的に、総務省によって「地域おこし協力隊」という制度が導入された。これは人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化していくことを目的とする取組みである。(総務省からの財政支援・隊員一人当たり上限350万円)

この「地域おこし協力隊」制度も開始から3年が経ち、任期が終了するタイミングとなっている。先日、総務省が任期を終えた隊員達の進路などについて行ったアンケートを公表している。このアンケートによると、昨年度に任期を終了した隊員は100人、そのうちの67人がそのままの地方へ定住する道を選んでいる。100人の隊員の中、心世代は20～30代なので、7割近くが定住するというこの数字から、この制度の活用が「ターン」に寄り添ったとも言ってもよい。

このように優遇的な制度がある以上、対象自治体として該当する当町においても本制度を活用していくべきだ。

町長 現在のところ、この制度の活用は見送っている。現状や実態に照らし合わせながら、外部の力を地域に活かす取組みを進めていきたい。

『丹後王国建国1300年記念事業について』

山添 来年度、丹後建国1300年記念事業が3市2町で開催される予定であり、その事業計画案が示されている。そのなかのひとつに「丹後に育てられた出身者による大同窓会プロジェクト」があり、丹後地域から外に出ていった多くの人をこの機会に呼び込むことなどを目的としている。非常に楽しみな企画であるが、当町では同窓会事業を推進している体制がない。仮に開催となる場合、どのように対応されるのか。

企画財政課長 まだ企画案の段階である。今後の進行のなかで考えていくことになると思う。



石田祭りにて、石田区のみんなど。

祭り

今年の5月も、太刀振りの振り手として「石田祭り」、神輿の担ぎ手として「宮津祭り」に参加してきました。

ふたつの祭りとも地元の担い手さん達が一生懸命に活動されているおかげで、すごい盛りあげりを見せていました。

こうした伝統行事が世代から世代へと受け継がれていることはすべてにおいて感動的です。



宮津祭りにて、地元へ帰省してきた大学生と。

議会活性化特別委員会

7月10～11日の2日間、議会活性化特別委員会の視察研修へ参加してきました。

主な視察内容は、議員定数・報酬の増減及びその考え方です。視察先の兵庫県佐用町議会・鳥取県湯梨浜町議会は、両議会とも「定数減」「報酬増」の選択をされていました。

この課題は、様々な角度から検証されるがゆえに、参照するデータも多岐にわたり、それぞれの見方があります。

その際、決定的に重要になるのは、「住民が議会に求めている役割」「議会が果たさなければならぬ役割」という社会的な視線の議論だと思います。

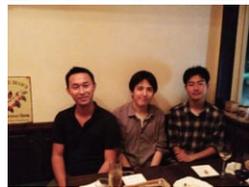
そして、それを前提とした議会改革ではないでしょうか。



湯梨浜町議会議員・職員のみなさんと。

30歳の成人式、その後

3月末の「30歳の成人式in与謝野」から数ヶ月が経ち、ミニ同級会などを開催する頻度が増えたなどの嬉しい話を聞かせてもらっています。こうした小さな変化が地域の力を押し上げていくことにつながっていけば嬉しく思います。



福島へ

7月7～9日の3日間、丹後地方に暮らす高校生から70歳までの有志10数名で福島県相馬郡新地町の応急仮設住宅で炊き出しなどのボランティア活動をおこなってきました。

わたしたちは被災された方々に何かできることはないかという想いひとつで現地に向かいましたが、みなさんに心温かく迎えて頂いたおかげで予定していた仕事を終えることができました。

印象に残った一言です。「こうしてここまで来てくれることで、私たちを見守ってくれていると感じることがができる」



福島県新地町のみなさんと。

www.yamazoetoma.com

ホームページにて山添藤真の日頃の活動をリアルタイムでお伝えしております。

山添藤真後援会

〒629-2263 京都府与謝郡与謝野町字弓木493番地

TEL: 0772-46-2031(携帯 080-2077-4591) FAX: 0772-46-4394

EMAIL: toma.yamazoe@gmail.com